明治二十一年二月二日刊行
明治二十二年五月廿五日再版

（無定價）

婦人衛生會雜誌

第壹號

大日本私立婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第壹號

目次

私立大日本婦人衛生會設立趣意書
衛生のこうのう　加藤弘之君
家内の衛生　坪井次郎君
月經時攝生法　榊順次郎君
看病法の大畧　岡田美壽子君
女子のいましめ　山川春子君
本會設立の主意　荻野吟子君
本會錄事
婦人衛生會雜誌の跋　松の舍老人君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立婦人衛生會雜誌第壹號　明治二十一年一月廿五日發兌

私立大日本婦人衛生會趣意書

夫れ人の此世にあるや徒に生活するを以て滿足する者にあらず然らば高尚の生活を爲す事を務めざるべからず高尚の生活とは天賦の能力を開發し智德を磨き職分を盡し幸福快樂の生涯を爲すにあり然れども健康の身體にあらざれば以て此生活を爲す能はず衛生の法を知らざれば以て身體の健康を保つ能はず衛生の法豈に一日も忽にす可けんや抑衛生の法たる一にして足らずと雖ども衣食住の改良育兒法及看病法等の如きは最も緊要なる者にして皆吾等婦人の掌理する所吾等の責任重しと云ふべし今や矯風會慈善會交際會等相尋で起り吾等婦人社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしき事なれ共衛生の一事に至つては更に注意を惹かざるもの丶如し實に慨かはしき事どもなり依て今相謀て玆に一社を設け名けて私立大日本婦人衛生會と稱し毎月一回集會を開き熟練の學士を聘して先づ衣服の洗淨 食物の調理住家の洒掃及 看病 育兒の方法等を講究し尙ほ之を筆記して雜誌を編輯し社員に分ち以て吾等婦人の責任を盡し聊か同胞の爲めに盡す所あらんとす江湖の諸愛姉奮つて贊成あらんことを切望の至に堪へず

私立大日本婦人衛生會

副會長　加藤鈴子

幹事　南部隈子　村岡久野子

細川靜子　荻野吟子

松浦里子

右撰定　但會長は廿一年三月の總會迄欠員

○衛生のこうのう

加藤弘之述

明治二十年十一月廿三日婦人衛生會席上演述、會員筆記。

此婦人衛生會と云ふものが出來たのは、大へん喜ばしひヿで今荻野さんのお話しの通り、どうか是から段々と盛んになるように致したいヿで、私の尤も望む所である。扨て今まも坪井君が言はれた通り、元來一家の衛生は婦人の受持つべきもので、男子は始終外へ行て家の事や子供の事は餘り世話をせんものだから之は是非婦人が擔當しなければならむ、それに日本はまだ開化が遅いから男と女に大層學問の相違がある、女は是迄餘り學問も出來なかつたから衛生の事でも男は其理屈を知つて居るが女は知らない、だから男が斯う仕たいと思ヿでも女の爲に出來なかつたヿが多い、然し當今は追々に衛生の事に限らず凡て女の事が開らけて來て男との隔たりが少くなつたが、中にも衛生は大切の事であるから住居のとなり食物の事なり又着物の事なり成べく女の方々が自分で擔當なさるが宜しひ。そこで今も坪井君は家の

お話しがあつたが私は衛生の事を少しも知らない、それで衛生の方法に付ては私も諸君も同じ程の智識で私が諸君に講釋するようなヿは出來やしない、然し衛生と云ふものは大切なものであると云ふ道理は十分に存じて居る、其仕樣は知らんが其効能はどんなに多いものだと云ヿは知つて居る、ダカラ今日はホンノお祝ひの印まで、少し其事をお話し致します。西洋には不具や病持が多い日本よりも多いと云ヿである、今日何事でも西洋のマ子を仕て居るのであるに西洋には日本よりも不具や病持が多と云が、それでは西洋をマ子るヿは出來ないのではない乎、醫術も大へんに開けて居るのにナゼ西洋には不具や病持が多い乎、そんなに不具や病人が多いと云ば日本が其西洋のマ子をするのは何如であらうと大層不審に思れる。然し之はタツタ一言言へバ不思議でないヿが分かる、即はち西洋では不具や病持を生して置く

事が出來るほどに衞生が進んで居るが日本では之を保つて生して置とが出來ぬから其數が少ないのである、西洋に不具や病持の多いのは西洋は日本より醫術や衞生の學問が進んで居るからである、今此にある表によつて之を見ると極よく分る、之は日本と西洋との不具や病持と死人の割合を示めすものである。

日本人百人中	西洋人百人中
不具病持　二十八	不具病持　二十八
此内十五人死	此内十八人死
殘五人	殘十八
合計八十五人トナル	合計九十八人トナル
此内不具病持　五人	此内不具病持　十八

此はたゞ割合を示した計りて實際の人數が此の通りだと云譯ではない、之によつて見ると西洋に不具や病持が多いのは死なずに生て居るから多いので、日本に少ないのは夫が多分死んで仕舞うから少ないのであると云ふとが分かる、然し西洋にある十人の不具や病持は最早不具や病持ではない全く丈夫の人と爲つたものであるから、實は西洋には不具や病持が多いと云ふてはならぬ、生れ附は不具や病持であつたものが多いと云べき筈である、日本ならば死なして仕舞ものを生かして置くとが出來る、日本では西洋で助けるとの出來る人を死なして仕舞、それで衞生の大切なと云ふ道理が明らかに分かる、衞生が盛んであると死ぬべきものをも生かして置く、然し之が盛んでないと生かして置くとの出來るものを死なして仕舞、して見ると衞生の大切なとが誰にも分かる。

特に西洋の樣な開化した所ろでハ人々がする仕事が多い、だから開けない國ならバ死んで仕舞はなければならぬ人が西洋では丈夫に爲つた上に又いろ〳〵の仕事を爲るとが出來る。日本でも築地に盲啞學校

がある、メクラ、ツンボ、ヲウシなどに學問をさせて又仕事を教て遣、是迄ならばメクラは琴三味線の師匠になるか其次はアンマになる位のヿで、ヲウシなどは何にもならぬ、然し今ではヲウシでも物を言るやうに成て且色々の仕事を教ると反て好仕事の出來るヿがある。私は嘗て西京の盲啞學校へ行つて見たヿがあるが、廿二三の男で金銀にホリモノを仕て居るヲツシがあつた、學校の先生が云に此男はヲツシであるのみか元は眞に智慧のないものであつて何を教ても出來ない者とは勿論辭儀をするヿも出來ないコンナ馬鹿者は退校させるより仕方がないと思つて居つた所ろが或る時他の人が金銀の細工をするものを見て一心に見とれて居たから一つ之をさせて見ようと思ふて何事も外の事を止させて之を習はせた所ろが眞に之を好んで他人よりは進歩も早く來年卒業する筈だが其上は西京の金銀ホリモノシの中でも指折になれる程であると申ましたが、開けて來ると不具を丈夫にするのみか之に仕事をさせて左様な上手に仕立る事が出來る、然し其元は衞生と醫學の手柄であるから之に付ても衞生や醫術が開けねばならぬヿが明らかに分かる、實に不具や病持が命を助けられて其上に世の中の用に立つヿか出來るのは全く世が開けたお蔭で昔しならば死んだ方がよかつたものが今では此樣に幸なものになれる、昔ならば不具や病持は、若し親兄弟でも死なれて仕舞つたならば一生人にもてあまされた者が、今ではたゞ生かしてもらうのみでなく仕事まで與へられると云ふは幸福大へんなものである、二千年ほど前にスパルタと云ふ國ではイクサ計りをして居つたが、イクサをするには強い者が入用で強いものが無いと負けて仕舞ふ、それでスパルタと云ふ國では不具や病人はもとより、あたり前の人間でも少し弱いものは殺ろして仕舞つて後來

立派な勇士にでもなれるものばかりを生かして育てゝ置た、今日でも日本から二十日三十日位の船路をする所へ行いて見るとまだコンナ國がある、其國では國が貧乏で生まれる丈けのものを生かして置くとが出來ないから男の子の弱いものや女の子などは多く殺して仕舞う、之は食物などが足らないから殺すのであるが、猶甚はだしいは親でも厄介計りになる比は山へ棄てる此樣な厄介ものを持てはならぬからと云つて構はん山へ棄てゝ殺ろして仕舞う、大へんなとだが今日でも何ほソンナ處ろがある。

然るに今日では不具や病もちまでを、丈夫にして世間の厄介にはせず反つて世の中の用をさせる、みんな開化した國になるのは第一に衛生が進み醫術が上手になるとである、して見ると又た衛生の大切なとは言ふ可らざるほどである。

然し衛生と醫術とは兩方ともに大切だが、其中にも衛生の方が更に大切である、衛生とは用心して病氣にならんやうにするのだが醫術は最早病氣になつた者を直ほすものだから衛生は元で大切である、譬へば婦人方には着物が大切だから之をヨゴサナイやうに破れぬやうに仕樣となさるものだ、然し若しお客にてもヨバレタとき食物の汁か煙草の火玉でも落ると大變なとでモウあとで直ほさうとしても直らんが、若し初めに汁を落さないやうに火玉を飛ばさないやうにしたらば好つたとで斯く最初に用心をするのが肝腎である、醫術よりも衛生の方が先づ大切である、元であると云ふのは則はち此處の道理である。

然し衛生なども事を盛んにするのに一人〳〵では効能が渺い皆々集つて仕なければ出來ん、だから此會のやうな者が出來るのは大そう宜しいとである。然し此會は貴婦人方の會とあつては宜しくない、固よりイカンとは無いが會の効能がうすい、かの流行病

などは下等の人々の衛生が行き屆かんから起るもので、コレラやチブス、カッケなども多くは下等の人々が揃はんから起るもので、最早一旦流行しだしてからは上中等の人は乍ちまち其害を蒙るとです、一體上等の人々は自然に衛生に適つたとを得て居る、中以上の人は洗濯も度々するし着物をも清潔にする食物も一と通りよろしひもので腐つたものなどは食べない家屋も塵芥が少く空氣や光も自然に流通がよろしい、故に此類の人よりも寧ろ下等の人には特更に衛生の智識を開くとが大切であるから此の婦人衛生會は成べく下等の人を導くやうな心持で往たいものである。

然し會の事に盡力する人はアナタ方のやうな人でなければなるまい、どうぞあなた方が盡力して彼の下等の人々を會に案内して衛生上の心得を聞かせるやうに爲さりたい、そうして衛生の大切なとや其こうのうが能く分つたらば下等の人々でも能く自身で用心するやうに成る、警視廳などから八釜敷云ふに及ばないやうに成る其手數が大層省ける、下等の人は譯が分らないから衛生の事に頓着しないのであるが此會のおかげて其理窟が分ると大へんに効能がある。夫だから會員の方々が會に臨まるゝ時は成可衣物を質素にして下等の人の來易い樣に爲さりたい、實に衛生上の害は下等の人々の間だに行はれ易いものであるから先づ之を取除くやうにして諸君が盡力ありましたらば、此會の効能は大そうなもので日本の婦人衛生の上に莫大のチカラがあるとでありませうと存じます

（完了）

○家内の衛生

坪井二郎述

此度婦人衛生會の御設が在て、私も茲に貴夫人令孃の前で、一言述らるゝと云は、實に私に取て榮譽の事

で御座ります。

此婦人衛生會の設立は私も大賛成でありまして、既に私なども、此御設のあることを前より望んでをりました。一體御婦人方は、餘程衛生の事に御注意が無ければなりません、なぜと云ば、御婦人方は、不斷家に御いでになり、一家内の衣食住から、子供衆の發育方迄、皆御婦人方の御役で御座ります。さて、衣食住や、子供衆の發育方の善惡を知るの學問は、即ち衛生學でありますから、御婦人方は是非此學問を御承知でなければなりません。

此外、婦人衛生會の必要なる所は、凡そ衛生と申しますのは、學問上に議論するよりも、實際に行はなければなりませぬ、御婦人方は前申上た通り、家事を御司どりで御座りまするから、此御婦人方が、衛生に御熱心なれば、直にこれを眼前實地に行ふことができ、食物はこれではならぬ、もつと榮養分を益さねばならぬ、亦、衣服はこれではいけぬとか、或は、此家は濕ポックていけぬとか、皆之を御改良をなさることができますから、誠に結構なる事で御座ります。故に、御婦人方は、衛生學の手足であり、亦衛生學の母と云ても、宜く御座りませう。左れば衛生學に於て尊みまする神は、女神でありますが、御婦人方と衛生との關係を明にするは之に越したとはないでありませう、夫故衛生進步の大なる部分は、御婦人方が御引受ならねばなりませぬから、御婦人方の衛生に取ての御役は、實に重ひ事と考がへます。

そこで、私は今日、茲で何か衛生に關する事を一ヶ條御話し致しましやうと、種々考へて見ましたが、餘り能き考へもでませんで御座りましたが、遂に今日は、家即ち住家の事に付て述様と取きめました。私が今ま家の事を御話し致そうと思ますのは、取わけ、御婦人方に取ては、家の事に御注意がなければなるまい

と思ひますからで、前にも已に申ます通り、御婦人方は不斷家を御守りにおりますから、住家の衞生に適つているかいないかは、第一に御承知がなければありますまひ、殊に、御婦人方と家と親密なる關係のあると云證據は、御婦人方の唱へ方にいくらも、家に關する語があります、即ち、御簾中様、奥様、女房、家內、御家さん、などと申すではありませんか。

愈此から家の事に就て御話し致さうと思ひます。家の事に就て衞生上注意する事は種々ありまして、不殘之を申上る事はとても出來ませぬが、玆には、唯其極あらましを順序に述樣と思ひます。

第一。家の中の空氣のことに就て述べますとき、先づ空氣の必要を一寸述べますが、抑も空氣と申すものは、我等に取つては一番だいじなもので、空氣は地球上何處にでもありまして、家の內外を問はず斷へず之れを吸て亦た出します、丁度魚が水を飲だり出したりするのと同じとです、空氣の必要なる證據は米や其の他の食物より遙に入用でありまして、我々が食物を取るのは、一日中僅か三度でありますが、空氣を取るのは、遙に之れに越えまして、一分時間に十七八回で、二十四時間には二万三千回程でありまして、其の量は四十九石五斗(酒樽一二四個)程でありますから、丁度三度の食事の量よりも三千倍位であります。

如斯多量の空氣を取りましても、我々は少しも知らずに居りますが、これは通常空氣が見へ無ひからでありますが、然し今口を閉じ鼻を閉じますと、暫時にして忽まち苦しくなりますから、之れで何か吸ふ即はち空氣を吸ふと云ふとが確かでありまして、何にも無ければ、口を塞ようが、鼻を摘もうが、別に變りが無ひ筈ですから、之で空氣のあると云ふとが能くわかるではありませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そこで、今人が家の中にありましても、矢張これだけ多くの量の空氣がいりますが、小さな部屋の中に閉ぢこもつて居るとがありまして、迚も今云ふた樣な多量の空氣を吸はうとしても、其道が無ひ樣でありますが、決してそうではなく、矢張ろれだけの空氣は必す取て居ります、なぜと云ふに、家の壁にしろ、障子にしろ、皆能く空氣を通しますから、玆より空氣は自在に出入を致します、然し家の中にあると、外にあるとは、大に差ふ所があります、それは何であるかと云ふに、我々は不斷空氣を取ります（即ち吸氣）が其代りに「イキ」を出します、偖此の出す所の空氣は、我々の身躰に役にたゝぬ、身に取つて毒なもので、之を出す「イキ」によつて身躰より遠ざけるのであります、外でありますと廣いから此出した「イキ」は直に四方に散てしまいますが、閉籠たる部屋でありますと、中々此「イキ」が出惡ふ御座ります、中々障子の隙位から出位では充分でなく、遂には一度出た所の惡ひ「イキ」を再び吸はなければなりませぬ、之が大變に毒な者でありますから、可成注意して、戶障子を明け、空氣の能出入する樣にしなければなりませぬ、殊に大事なのは夜でありまして、夜は悉く戶障子を閉切まして、晝間外に働いて居た人まで、內に寐ますから、益す空氣が惡くなります、故に夜る寢る所の部屋は、可成廣く、且「ランマ」等を明けて、空氣の通ずる樣に氣を附けねばなりませぬ。

人の出す「イキ」の外に、室內の空氣を惡しくするものが種々あります、即ち、火鉢、ランプ、蠟燭等の燃へるときは、皆な人に毒な物が出來て、室內の空氣に混ります、西洋造りの家でありますると「ストーヴ」を焚きますが、これは燃へる煙りや又毒なものは皆筒を傳ふて家の外へ出てしまひますから、室內の空氣を不潔にするとが少なふありますが、日本の火鉢で

ありますと、煙出しの筒がありませんから、出る所のものは、皆室内の空氣に混りますから、知らず〳〵之を吸ふて大なる害があります、殊に、火鉢からは酸化炭素と云て、最恐るべきものが發生します、此の最毒なものは、炭の燃へ方がよくないと、愈餘計に出來まする、故にとりわけ炬燵の樣に、蒲團をかぶせ、炭の燃へ方を惡くすると、多分の酸化炭素が發生致します。故に冬にあり、蒲團をかぶり、炬燵や「アンカ」の中に寢る時は實に非常な毒なもので、翌朝になると頭痛が致します、餘程注意しなければなりませぬ、殊に小供などを寢かすときは、是から追々寒むくありますから、益す之に御注意を願ひます。

今まで御話し致しましたる所は、空氣のことで御座りまするが、まだ此外に氣を附けなければならぬのは、太陽の光線でありまして、家の中には、可成能く光か入らなければありません。光の入らぬ内は、實に陰氣なもので、病人が實に多くあります、西洋の諺に、光の入らぬ家には、醫者がはいると言ふ位のもので、光は實に大切なものであります、家の中が薄暗らくありまするど、殊に書見などをするに眼を勞らし、子供衆などの近眼の原因となりますから、書物を讀には、可成明るい部屋で讀まなければなりませぬ、其外光の入ることが不充分でありまするど、室内に濕氣を持ます、此濕氣は大變に毒なもので、これが爲に種々な、病が起ることがあります。總躰家の中は成丈乾いて居なければなりませぬ、夫でありますから、家を建るときには、可成南向か東向の日當りの善き處にしなければなりませぬ。

此外種々御話し致すとがありますが、餘り長くなりますから、今日は先づこれまでに致して措きます。

○月經時攝生法

榊順二郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月經時の攝生法の目的たるや身躰の健康を保持し受孕を催進するにあり而して其攝生法は時期及び躰質等に由り異あるものなり即ち次に順次に之れを記載す又攝生法を記載するに先ち一言す可き者即ち未だ月經を見ざる處女には春氣發動期に至れば必ず前以て月經あることを敎ゆ可し然らざれば陰部より出血を卒然起せば之れが爲め甚しき恐怖を發し或は之れを父母に告ることを耻ぢ自ら其出血を止めんが爲め異物を陰門中へ送入し健康を害するもの無きに非らず然るに初めて月經の來る年齡は各人其期を一定せざれども余の實驗したる平均數に由れば滿十四年半にして初月經を見る加之らず暖國地方の者は寒國地のものより早く下等社界のものは上等社界のものより早く躰格大にして營養の良きものは躰格小にして營養悪きものより早く月經の來るものあり其他敎育法の良否により遲速あり

又月經の長短、月經間時の長短、月經血の多少、等は各人異なるものなれども其度に過ぎざるものは害なきものなり即ち余の平均數に由れば月經時の日數は若年の時に於て大約四日より七日間壯年のときに於ては二日より五日間あり月經間時は大約二十五日より三十五日間あり月經血の多少は一定する能はざるものなり

月經時の攝生法を一般に言へば即ち飲食物の過用、精神感動、過劇の運動、下腹を絞窄すること、身躰を温潤寒冷ならしむること殊に冬期に於て腰部及び脚を冷す等は皆な害あれば必ず注意すべきことなり

未婚の婦人に於て月經時攝生法は其躰質に由りて二様の別あり

(一)躰質過敏の婦人は月經の攝生を守るは勿論平常と雖ども毎に攝生を行はざる可からず而して躰質過敏の婦人にして若し月經の來ること早きに過ぎ且つ久し

きに渡るものは是れが爲め身體の發育を損害すると甚し而して其原因となる可きものは即ち種々の刺劇物例之は香料、酒精の飲料を用ひ。精神の過勞。色慾を早く發すると。非常の身體勞動。筋肉の使用欠乏等は皆な體質を過敏ならしめて月經早きに過ぎ又久しきに渡るが故に必ず常に注意して之れを避くべし而して此の如き過敏性の未婚婦の攝生は先つ其原因となるべきものを避け。動物性食物と植物性食物と混食し。毎日新鮮の大氣中に運動する等は欠く可らざるものなり

(二)體質の遲鈍性の未婚婦にして月經遲きに過るものは大概身體の發育。筋力。皮膚の温度。消化力。精神等衰るを常とす故に此の如き婦人の攝生法は即ち空氣の流通良き所に住し。温煖なる衣服を着し。肉類を食し。赤酒及びビールを飲み。精神の發動すべき業を取り。體操を行ひ。鹽類を含みたる温泉又は鑛泉に浴し。時々緩下劑を用ゆる等は最も良効あり

月經時に當り多少の症狀を發するものあれども其度甚しからざるものは別に手當を要せず然れども間々月經の一兩日前或は直前に甚しき疼痛を下腹及び腰部に發するものあり此の如き疼痛に苦しむものは月經の一兩日前より一日一二回熱き腰湯をなす可し(湯中へ芥子一握を入るゝも良し)且つ月經血を多少見るも坐浴をなして害なし此の法にて効なき時は醫治を乞ふ可し

結婚したる婦人に於ての月經時攝生法は前に述べたる方法と異なるとなし唯だ異なる所は交接なり而して勿論月經時に交接を行ふは害あるものにして月經后と雖ども四五日間は交接せざるを良とす又夫に淋毒あれば交接后直ちに百倍石炭酸微温湯にて膣内を能く洗滌すべし而して洗滌用に用ゆる器械は「イルリガートル」或は灌腸器なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月經時の「シタク」(俗ヲンマト云ふ)に用ゆる布片ハ必ず新鮮淸潔の切れにして造るべし若し古切を用ゆるなればかならず一回洗濯したるものを用ゆ可し而して之れに用ゆる紙も新らしきものを用ひ時々交換し不潔の紙を用ゆ可らず又下等社界に於ては「シタク」を用ひずして直ちに膣内に紙の珠を送入するものあれども之れ有害なり殊に「スキカヘシ」一名淺草紙と稱するものを送入するものあれども甚だ害あるものにして之れが爲め治し難き子宮病を發すると多し故に注意す可し

又常に子宮病、卵巣炎、子宮周圍炎、子宮外膜炎等を患る者即ち强き白帶下に罹り下腹及び腰部に疼痛ありて其痛み下肢に引き或ハ便秘し或ハ發熱等ある婦人ハ平常上に述へたる攝生法を守り殊に月經時に於てハ大病人の如く牀中に在りて一日一二回便通ある樣になすを良とす

月經閉止期即ち余の實驗したる平均數に由れバ滿四十五年に至れバ成丈け身體を丈夫にす可し即ち其法ハ若し夏期なれバ皮膚に密着したる毛衣を脱し冷水浴をなせ戶外の身體運動等ハ最も効を奏するものなり

○看病法大略

岡田美壽子

看病の最も大切にして、おろそかにすべからざることとハ、人のよく知る處にして、殊に女子の爲すべき業でありまず。故に、女子ハ、此の方法を心得ておくことハ、きんようとおもひます。さすれバ、今その大略を記し、諸姉妹の參考にそなへます、病人のあるときハ、病人と醫者とに關係り、こまやかなるもの一人を定め置き、病人の容體や、藥の用ひ方、ならびに、日々の模樣を細かに記し、醫者に告げ、また醫者の命を、もれなく聞き、たがはさるよう嚴重に守り、注意るこ

とが、看病のかんようであります。然に、若多人數にて病人をとりあつかふときハ、たがひの手違より、種〻の誤謬を起し、害を致しますれバ、かならず、看病ハ、一人に定むることが、大切であります、看病する人ハ、おしなべて、温和優美く、心に針のなき様、致さなければなりません。

看病する人は、身躰を清潔になし、髮をも正しく結び、みだれざるよう、常に注意けなければなりません。されども、かざりハ、すべて、つけざるようにしなければなりません。

看病する人の、第一に守るべきことは、醫者の命令であります。故に、何ごとも、よく其命令に從ひ、佗人のいふことなど、決して用ぬようにして「たゞ醫者の命令を守らなければなりません。藥の用ひ方は、醫者の定めし時期より、一分にても違はざるよう、おこたらず注意なければなりません。また、病人がねむりおるときは、あたへてよきや、あしゝやをまへよりきゝおくべし。

病人の容躰は、時々に變化る物ですから、其容躰を、くわしく記し、醫者の來りし時、また使を以て、告げなければなりません。さすれば、間違もなく、時間のついへを省き、事柄もあきらかであります。

病室において、起臥、ふるまいに、心掛け、なるべく、しづかに、こまやかに働き、病人の心にかのふようにして、決して、さわらざるようしなければなりません。

戸のあけたては、心をもちひ、しづかになし、あけしときは、直にしめなければなりません。なぜなれば、室外の空氣、病室内に入るときは、あしき、ひやゝかなる風の、病人にふれて、たいそうわるいものであります。

病室にてハ、夜燈火を、なるべくほそくして、おかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ければなりません、なぜなれば、清き空氣が、あかりのけむりのために、不潔なり病人にさはります、かくべつ、肺病などには、たいそうわるいものです。病人の手を離るゝ時あるも、病室にては、何事をもなしてはいけませんです。また、新聞其他小説なども、漫りに讀むことは、悪うございます。なれども、病人の望みなれば、其の中の、最もおもしろきことや、たのしきこと、また、よろこばしきことを、讀聞すべし。なれど、あまり病人にかんじすぎては、いけません。なぜなれば、病の手傳をいたします、かなしきことを、つみびとなとのことは、決して讀聞せさるよう、心掛ねばなりません。

（まだおわりません）

○女子のいましめ　山川春子

皆樣方は、何の爲め、此の世の中に生て、御出でなさるか、私は、申します、若き御方は、お芝居が見たい爲の御方あり、また人をこひしと云ひとあり、また甘きものをこのむ爲のおかたあり、ふるきおかたはかねをためるひとあり、年老ひて樂するため働く人あり、また子や孫をおもひ、つめの先に火をともす人ありとか、聞きました、なれど、近頃まで、我が日本にては、國を御召めす、おんなは、いとゝまれてあります。

こんにちの世界はいづくもちゑとおかねのよのなかにて、此のたからあれば、何ごとも出來ますとか、おはなしのお方もありますが、わたくしは、まだ〳〵、わが身を、一生はなれぬ大切のしろものがありますとおもひます。

その大切のしろものは、いのちにて、前への二つのたからありとて、命なければ、何も出來ません、左樣うなれば、人として、必す、持つべきしなは、前の三つのしなにて、人にかぎりなきたからてあります。

されど、人は、ぜひ〳〵、此の三のしなを、もちますれ

ど、それに、いろ〳〵、ちがひがあります、ちゑに、すぐれしあり、にぶきあり、かねは、すくなきかたおほく、いのちに、みじかきあり、ながきあり、この三つのしな、そろはざれは、人の上にたつことが、むづかしく、じうぶんのことが、できません。

そのうち、ちゑも、おかねも、ずいぶん、こしらへることができますれど、いのちは、いかなる、人にても、まへより、命のかぎりをしることもこしらへることもできませんで、はなはだ、六ヶ敷しろものであります。

たゞ、用心をなし、たをされるまへより、ひかへばしらをなさば、三十年のいのちも、四十年はいきながらへる勘定で、十年の間、自分のを好きの、おすしも、おぼたも、おこのみ次第に出來ますと申すものです。

されは、用心と申さは、どんな工風でありませうか、別に六ヶ敷ことではありません、ゑいせいと申ひかへばしらが、入用であります、いまみなさまにわかりやすく申さは、こゝに、長き塀ありとし、たをれんとなしてはしらをつくるより、まへかどよりつくりおけば、大丈夫でありますと、同しく、命の衛生もかねてなしおるべきことゝもあり、軍みて矢ははれません、また、前におともどり申しますが、生れつき、ちゑにはちがひがありますも、學校にゆけば、べんきやうとふべんきやうにより、かしこくも、おろかにもなられます、お金も、俗にうんとかなにとか申すものゝ、べんきやうすれはおい〳〵にたまります、おかねやちゑは、うらやむものではありませぬ、これに變りて、命と申す品物は、幾何お金があるもかりることも出來ず、もとめることもできず、幾何、日本第一の代言やさんでも、命は、べんぜしてのばすことができません、幾何上等の御醫者樣でも、有馬の湯でも、なおらなみ病は、むだにて、かへらぬたびぢへ御いでなさいます。

いまこゝに、命の大切なる證據を申しませば、昨冬おかくれあそばされし、さつまのそのさまのごとき、何に不足なきお方にて、ちゑもあり、お金をどつさり、申すまでもなく、いろ〳〵、おてあてもあり、てんしさまよりも、御手元のおいしやさま、いわささまを、わざ〳〵、東京よりさつまへ御つかわしにありて、種々樣々の御療治をつくされしも、命に、限りありて、地の下に御たびゆきあそばしたてはありませんか、また、日數たゝぬうちに、日本銀行の頭取、吉原さまは、たれしらぬものぞなき、御方にて、しかも、御金のだいどころの御頭あれば、何に一つゆきとゝかざることなき次第あれど、四十や四十二を、この世のさかいにて、かへらぬ御たびゆき、あわれてはありませんか。

まへ申しますとふりて、ちゑやおかねは、貴き樣で、直價がひくいものであります、ほんに命は、人の勝手次第になりにくき、まことに、貴きひつようある品物て、これさへあれば、ちゑもできおかねも、こゝろ次第どつさりためることが出來ます（あとはつぎへゆづります）

○本會設立の主旨　狹野ぎん子

本會は創立後日も淺ふ御座りましてまだ役員も定まりません夫故止むを得す會員諸姉に代て御來會の諸君へ一寸申上ます該會は衛生の一日も緩かせにならぬといふとよりして其初議に僅か斗りの姉妹の熱心より成立した者て御座ります爾來近々諸愛姉の御賛成を得まして今日は最早殆んど百を以て數ふるの多きに至りました事は誠に本會の幸でござります啻に本會の幸のみならす實に我國の幸て御座ります何とあれは凡て何れの國を問はす國の富强を謀りますには衛生を普及するが第一て有と思ひます若し國にして其人民衛生の何たるをしらざる時は身躰不

健康にして其精神も自然不活潑になります或る衛生家の言に身躰健康ならざれは活潑の精神宿らずと申して有ます之に由て見れは衛生を普及せざるときは殖産工業百般の事業を興すとが出來ません隨て國の力疲弊致します春の元氣が衰へ升夫故に私共は本會の隆盛は啻に此會の幸のみならす我日本國の幸て有と思ひます何卒御來會の諸君舊て本會に御賛成あらんこと會員一同希望致します終に臨て一言致します本會に付き或人申升には衛生會は己に明治十六年設置したり彼の會に加り共に盡力あらば何ぞ別に設立するに及ぶましと此言一應理あるかしりません乍去此會の獨立を要する譯は男女教育の度を異にするより知識の懸隔ありて男子の喜ふ演説は婦人了解しがたく婦人に了解し易き演説は男子或は喜ばざらん殊に衛生上の働きに於て男女自ら差異あるか如し私共の考には婦人は公衆衛生より自己の衛生即家内衛生（料理 育兒）に主として關係あるが如し右に申上た樣の譯にて本會を殊更に設立したのて有升。

●本會錄事

○本會發起人姓名

麹町區上二番町四十四番地　加藤鈴子
南豊島郡千駄谷村四十番地　南部隈子
本郷區湯島天神町一丁目七十番地　大澤作子
麹町區三番町九番地　村岡ひさの子
神田區駿河臺南甲賀町八番地　原田とき子
神田區駿河臺北甲賀町十一番地　佐々木よし子
四谷區箪笥町五十三番地　細川しづ子
本郷區弓町一丁目十一番地　榊こう子
下谷區西黒門町二十二番地　荻野ぎん子
芝區慈恵醫院　松浦さと子
下谷區御徒町二丁目三十八番地　太田いく子
神田區駿河臺南甲賀町八番地　原やゑ子
麹町區上六番町三十六番地　岡田みす子

○本會發起賛成人姓名

麹町區飯田町三丁目十三番地　三好むめ子
本郷區湯島五丁目十番地　佐藤しず子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京橋區西紺屋町十番地　高木とみ子
赤坂區一ッ木町八十番地　長與その子
本所區相生町五丁目十六番地　三宅ふじ子
麹町區下二番町四十七番地　金井たけ子
下谷區中御徒町二十一番地　齋藤まさ子
神田區小川町四十番地　樫村ゑい子
京橋區築地采女町　伊東あさ子
麹町區上二番町十三番地　石黒よし子
同　區三番町廿九番地　萩原てう子
麹町區飯田町三丁目廿九番地　神田くまちよ
同　區飯田町四丁目十二番地　西鄕つる子
日本橋區兩國藥研堀町一番地　浦島てい子
下谷區竹町一番地　武　ふみ子
大坂府中之島五丁目十七番地　野上みつ子
愛媛縣讃岐國　設樂その子
麹町區中六番町三十六番地　守住のぶ子
神田區駿河臺南甲賀町八番地　高橋とく子
麹町區中六番町二十八番地　矢島かぢ子
四ッ谷區左門町六十五番地　志賀やゑ子
麹町區三番町九番地　松本たけ子
四ッ谷區左門町六十五番地　兩角てる子

赤坂區榎坂町十五番地　德富志ず子
麹町區飯田町三丁目卅一番地　最上いと子
本鄕區元町一丁目三番地　山本たゝ子
四ッ谷區大番町　瀧田志げ子
神田區今川小路二丁目十四番地　鈴木とら子
神田區神保町　竹澤さと子
芝區新堀町　本田せん子
牛込區宮比町四番地　鈴木まさ子
岡山縣岡山區東中山下十三番地　山川よう子

○本會役員姓名

副會長　加藤鈴子
幹事　南部隈子　細川靜子
　　　村岡久野子　荻野吟子
　　　松浦里子

但し會長は廿一年三月總會迄欠員の事

○本會會員姓名

東京府
松本さよ子　佐々木芳子　神田熊千代子
志賀八重子　守住のぶ子　內河いく子

新田まつ子
多々羅とよ子
牧かね子
金井元子
小玉小春子
矢島かち子
瀧野さゑ子
小倉さよ子
川口せん子
湘島てい子
高橋とく子
佐藤静子
高木富子
杉山梅司子
山本久子
新居民子
森どあ子
高木倉子
瀧田しげ子
莊田きく子

原田とき子
齋藤まさよ子
村松志保子
篠原さだ子
鈴木まさ子
萩原そう子
榊こう子
山本糺子
石黒よし子
八木まさ子
樫村永子
竹澤さと子
村井すゞ子
竹中政江子
塚原りつ子
長谷川あか子
古瀬民子
三好すよ子
鈴木松子
磯谷君子

兩角てる子
松田むめ子
本田せん子
伊東わさ子
大野こう子
明石かゑ子
小倉規矩子
小池民子
大澤さく子
土井榮子
東條ちとせ子
鈴木とら子
西尾きやう子
森あや子
西郷鶴子
鈴木あか子
久保準子
尾崎いと子
北古賀かつ子
世古きね子

目黒さだ子　花岡とふ子　杉さと子
安德理運子　村上たつ子　玉置よしの子
中島せん子　大石てる子　松平錫子
吉田胤子　山田いつ子　貝坂とり子
後藤その子　杉山みつ子　湯川かつ子

岡山縣

山川よう子

大坂府

野上光子

千葉縣

大須賀鶴子　長谷川もよ子　藤原きん子
榊原よね子

岐阜縣

田口敬子

愛知縣

大島錫子

在清國上海

高平清子

○贊成員

丸岡菊子
内井桑子
香月夜雨子
阿川はつ子
堀内きよ子
野崎和賀子
溝岡かく子
淺井房子
村岡銀子
佐々木むめ子
雨宮連子

○男子贊成員

内田幾二郎君
熊谷小太郎君
加藤弘之君
菊池松亭君
巖本善治君

○本會へ寄附物品覺

金三圓弐拾錢　南部隈子
仝壹圓八拾錢　村岡久野子
仝弐圓　太田いく子
仝壹圓弐拾錢　細川靜子
仝壹圓　加藤鈴子
仝壹圓　川日せん子
仝同　荻野吟子
仝同　北古賀かつ子
仝同　多々羅どよ子
仝同　雨角てる子
仝三拾錢　古瀬民子

金二拾錢　湯川かつ子
仝同　新居民子
仝壹圓二拾五錢　細川靜子
火鉢二個 但シ初會開延へ携帶　松木竹代子
折詰四十　加藤鈴子
包菓子三百個 同上　仝人
甲州葡萄二籠 同上　仝人
柿三百個 同上　仝人
煎茶壹斤 同上　仝人
カステイラ 同上　仝人
美花三紙 同上　村岡久野子
大坂日報 一　野上光子
浪華新報 一　仝人
鳥取新報 一　仝人
福陵新報 一　仝人
普通新報 一　仝人
愛知繪入新聞 一　仝人
日本之女學 一　日本女學社

東京芝區慈惠醫院

金弐圓　看護婦中
仝壹圓五拾錢　中島せん子・山田いつ子・小倉竹代子・八木まさ子・兒玉小春子
金五拾圓　石崎政藏
仝三圓　金井もと子
仝弐拾錢　長谷川なか子

○婦人衛生會雜誌の跋

子を孕める母の行状が正しければ生るゝ子は端正善良なりとは三千年も昔の想像話にして小學の童も能く知りつる事にあんなりけるが代替り年うつり人々の智識ひろまり八百萬つの事何一つもくわしくならざるハなしその中に就て生を衛り長命をうくるほど大切なるものハあらじよってこたひ志を同ふせし賢婦人相語いて此會を設られ博學多識の人を聘し衛生上の講義演説を承けこれを毎月一小册に綴り入會の各位へ頒ち廣く全國に及ぼし諸の病を未發に防ぎ長命して國家を強ふし國家を富まし日本をして萬國に秀で畏くも我

皇帝陛下の御威光を海外にかゞやかし奉りあばこよなき事とてまづ婦人より衛生の尊き事を守り育兒看病の仕方より居所衣服の清潔に至るまでことくく學ひおほへなバ無病息災の國といふに至るべし聞く處に據れバ日本人の年齡を長幼平均せしに二十三四年にて終るといへり寔にはかなきものならんやゆへに衛生を守りなば平均五十歳くらいにも長壽をなすハ必然の事なるべし然れども衛生の仕法いまた裏店邊鄙へ行はれずして動もすれハ年々流行病の本原を惹起しそれが爲に廣く傳染して禍を被るもの多し去りとて此まゝ衛生に注意せざれバ之れを防ぎ止め難かるへしゆへに本會ハ月々出す處の雑誌に就てよく讀みよく信じて此講義演説を家訓となし實事に先て此書の如く行ひ給へば果して病なき人となるべしと信ぜり然るに第一回の雑誌は單に創立の主意を演へし一小册なれ共第二回よりハ數十ペイジを増加し家訓となるべきいと長き敎へ草をつらね讀み終れバ直ちに實用となり其効能も意ろにあらわるゝの雑誌なれハ毎回の小册合せ綴ち給んとを乞者ハ

同じ會員松の舎老人

私立大日本婦人衛生會規則（改正）

第一條　凡本會の目的ハ汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

第二條　本會ハ私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する向ハ身分の尊卑を問ハず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する向ハ族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所ハ京橋區日吉町八番地に之を置く

第五條　入會後轉居する向ハ速に事務所に通知ある可し尤死去の節ハ親戚知友等より通知ある可し

第六條　本會々員ハ分て終身會員通常會員の二類とし共に會費金を納むるものとす

但終身會員ハ一時に金拾圓以上を納め通常會員ハ一年金壹圓貳拾錢（三月九月の兩度に金六拾錢宛）を納むるものとす尤も會員中書生及其他事故ありて定額を納め難きものハ唯雜誌料として毎月金五錢を納めしむ

第七條　男子にして本會の主義を賛成の向ハ之を賛成員とす尤も會費金ハ本會員に同じ

但本會に功勞ある向ハ役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とすることある可し

第八條　本會に左の役員を置く

會長一名　副會長一名　幹事七名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事ハ會員の投票を以て之を互撰し書記ハ幹事の推撰により會長之を命ず

但書記ハ都合により會員外の婦人又ハ男子に托することあるべし

第十條　會長ハ本會を總理し副會長ハ會長を補佐し又ハ其代理をなし幹事ハ會長の命を受けて會務を處理し書記ハ上役の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一會計　第二編輯出版　第三庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に評議委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事の任期ハ一年とす尤も再選するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事ハ無給料とし書記ハ相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會ハ七月八月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午后一時より之を開く

第十五條　毎會學士を聘し講義演説を嘱し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し四季各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆることあるべし

第十六條　會員ハ家族の婦女子又ハ知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但會員に縁故ある男子ハ此限りに非す

第十八條　本會の所有金ハ本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額ハ日々の費用支出の爲事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支ハ總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條　會員又ハ會員外より金圓若くハ書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費ハ郵便小爲替にて東京芝口郵便局へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遞信省認可

向け振出しある可し
但不得止場合には郵便券（一錢券に限る）を代用するも妨けなし尤一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の向は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の集會に於て會計の收支庶務の概畧并に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あらば之を報告するものとす尤議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは預め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　毎年九月の集會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に牴觸せざる樣起草し本會役員の認可を經べし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　退會せんとする向は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

東京京橋區日吉町八番地
私立大日本婦人衛生會

○番地記

東京衛生試驗所	東京神田和泉町一番地
牛痘種繼所	同　下谷二長町一番地
藥草試驗園	同　小石川指ヶ谷町七十七番地
帝國大學第一醫院	同　本郷元富士町一番地
同　第二醫院	同　下谷和泉町一番地
東京鎭臺軍醫部	同　麴町隼町一番地
同　病院	同
軍醫學校	同　芝公園内一番地
軍醫學舍	同麴町富士見町四丁目十四番地

私立大日本婦人衛生會事務所
東京日吉町八番地女學雜誌社内

本會雜誌編纂委員
荻野ぎん子
鈴木まさ子

發行所　東京京橋區日吉町八番地
私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行人　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治
印刷人　東京芝區源助町拾壹番地寄留　森田豊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN